



# 防災意識とその実態

## 防災情報・防災準備・防災訓練に着目して

駒澤大学 内海麻利ゼミナール  
防災アンケートチーム



## 0. アンケートの趣旨とソース

### 1. 2022年：町会（親和会）へのアンケート

**回収数と属性：512** 世田谷区に在住、または通勤・通学している方  
**主な目的：**区が発信する防災に関する情報情報が住民にどの程度、認知・活用されているのかを明らかにするため

### 2. 2023年：駒澤大学のアンケート

**回収数と属性：146** 駒澤大学の学生や教職員、関係者  
**主な目的：**(1)のアンケートで若年層の回答率が悪く、様々な主体の意向を確認しなかったため

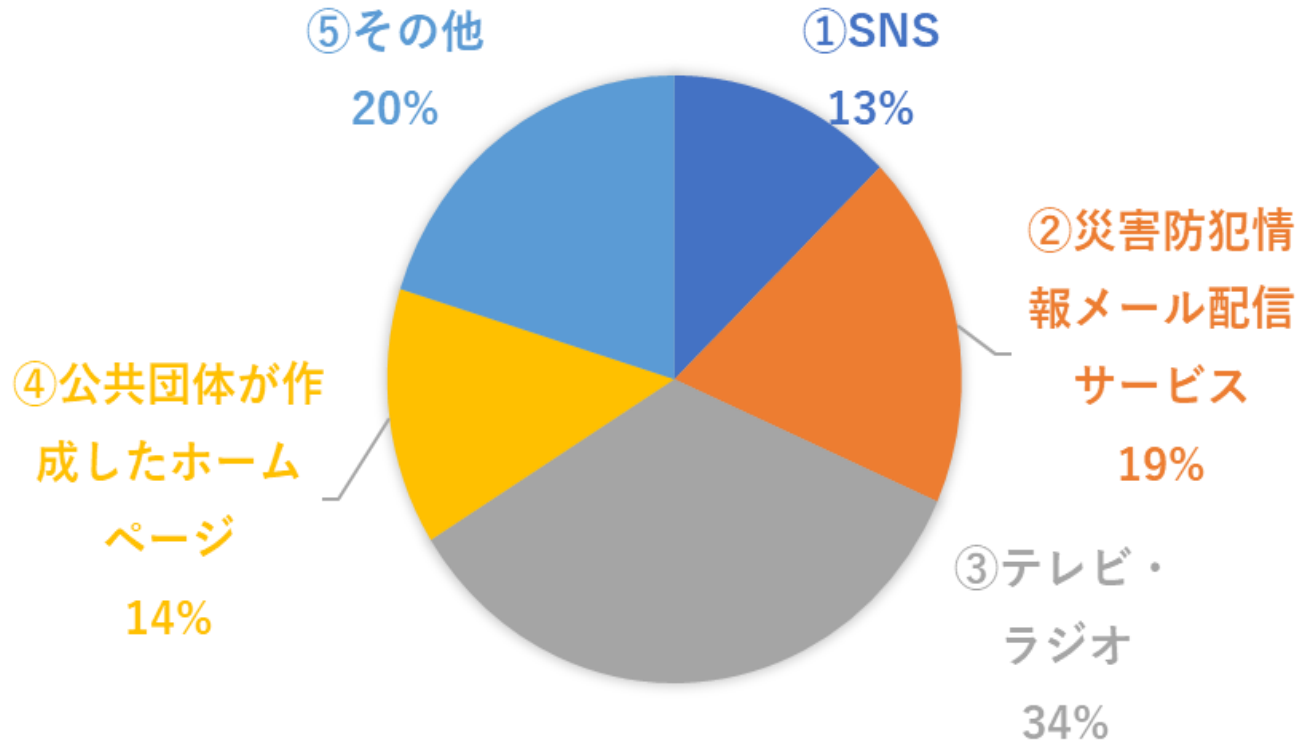


### 3. 2023年：「防災コミュニティラボ」イベント

(1)(2)の課題を「**防災情報・防災準備**」と「**防災訓練**」に絞り込み実施  
**回収数と属性：59** 世田谷区に在住または通勤、通学している方



# 1. 2022年：町会（親和会）へのアンケート



## ●役に立つ情報

- 年代を問わずテレビやラジオが一番役に立つと考えている
- 防災災害メールを信頼している人も多く、回答者の約2割が一番信頼していると答えていた

## ●防災訓練

- 防災訓練の参加者は少ないが、実施の有無等の認知度は高い
- 町会の回覧板など既存の媒体への信頼度が高い



## 2. 2023年：駒澤大学のアンケート

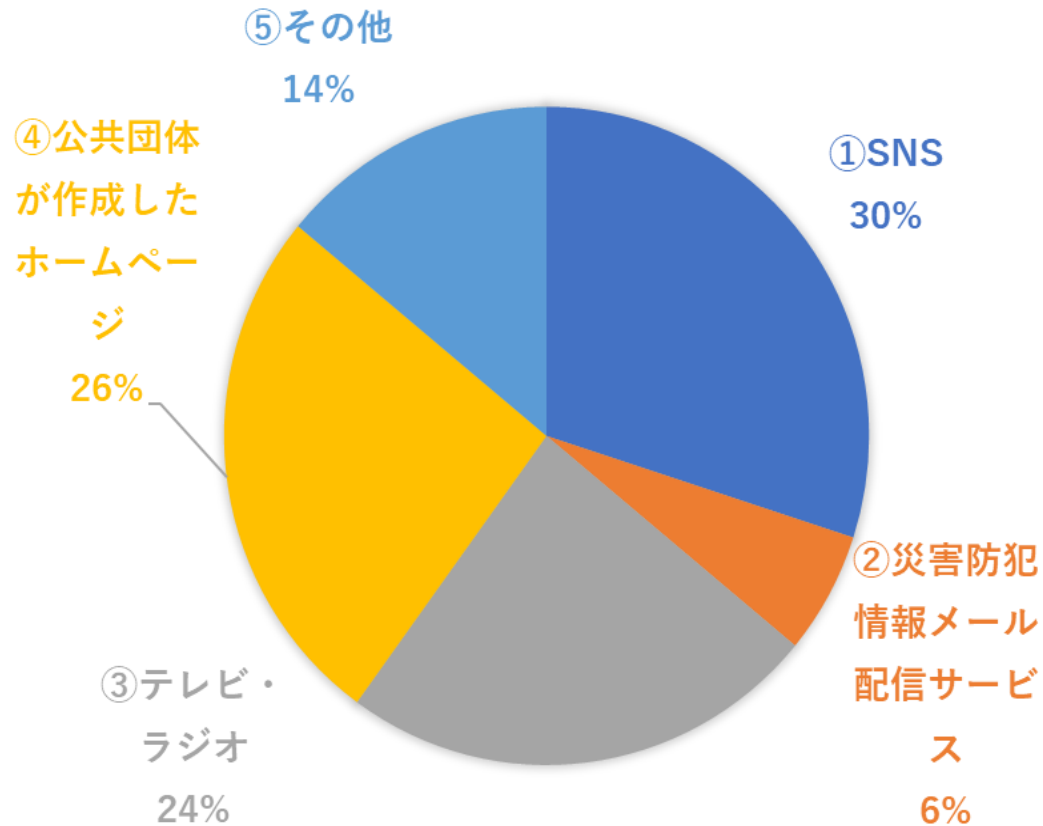
### ●役に立つ情報

- 2022年は公共団体が作成したホームページが一番人気であったが、2023年はSNSが一番人気である
- 次いで人気であったのは公共団体が作成したホームページ、テレビラジオであった

### ●防災訓練

- 現状として防災訓練の情報が行き届いていない
- ホームページなどインターネットから防災訓練の情報を得たい人が多い

23年駒大





### 3. 2023年：イベントアンケート

「防災情報・防災準備」に関する質問

#### ●食料の準備率について 全国と比べて**防災意識が高い**

	2 - 3日分の食料	4日以上の食料
全国	20%	15%
上馬地区	40%	37%

#### ●防災用品の点検頻度 全国と比べ一概にいいとは言えない

	2 - 3ヶ月に 一回以上	半年に一回	年に一回	数年に一度	点検しない
全国	6.1%	21.1%	33.3%	23.1%	16.4%
上馬地区	12.7%	12.7%	32.7%	16.4%	25.5%

「2、3ヶ月に1回以上点検する割合」は**全国の2倍以上**であった。  
しかしその一方で「**点検しない**」割合も多い

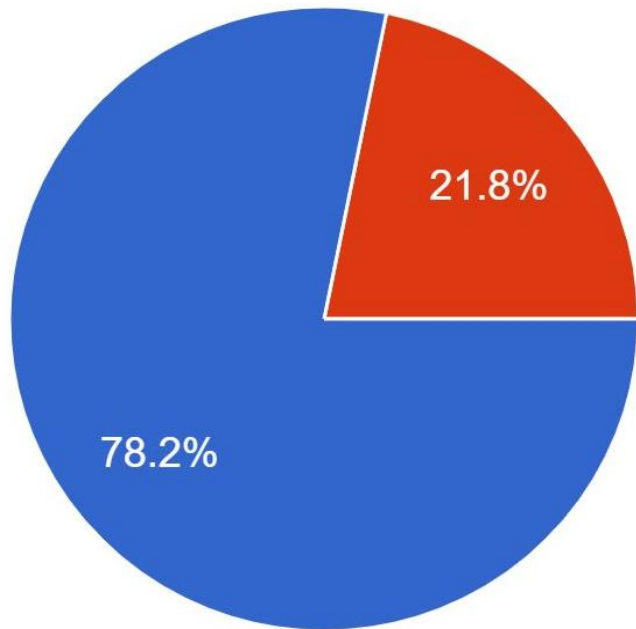


### 3. 2023年イベントアンケート

「防災情報・防災準備」に関する質問

#### ●在宅避難について

在宅避難を検討している割合は約8割



- 在宅避難を検討している
- 在宅避難を検討していない

#### 理由として・・・

「ペットや高齢者、幼児がいる」「感染症のリスクが気になる」「プライバシーの確保のため」「定員の関係で避難所に入れないのではないか」

→年代を問わず在宅避難を検討しているため、それに向けた支援が必要だと考えられる



### 3. 2023年イベントアンケート

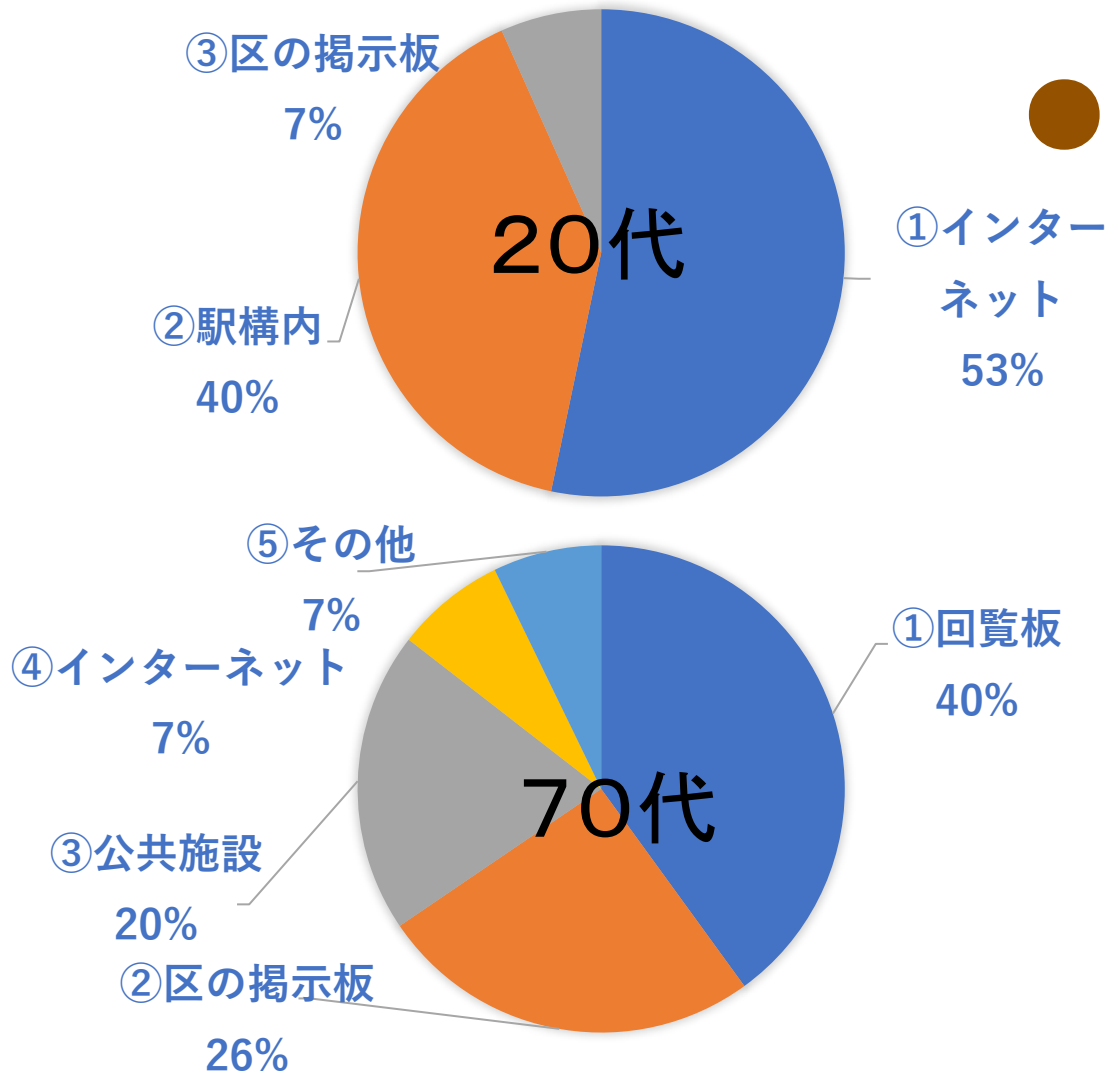
#### 「防災訓練」に関する質問

#### ●防災訓練の情報をどこで得たいか

- 20代…インターネットや駅構内
- 70代…回覧板や掲示板、役所などの公共施設

世代によって行動が違うので情報を得たい場所も異なるということがわかる

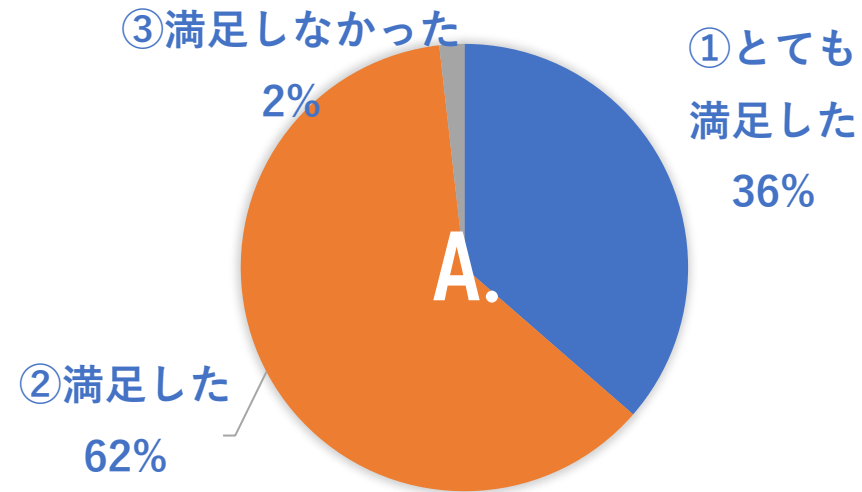
→**様々な場所**に防災訓練の情報を掲示する必要性がある





## 2. 2023年イベントアンケート

### 「防災訓練」に関する質問

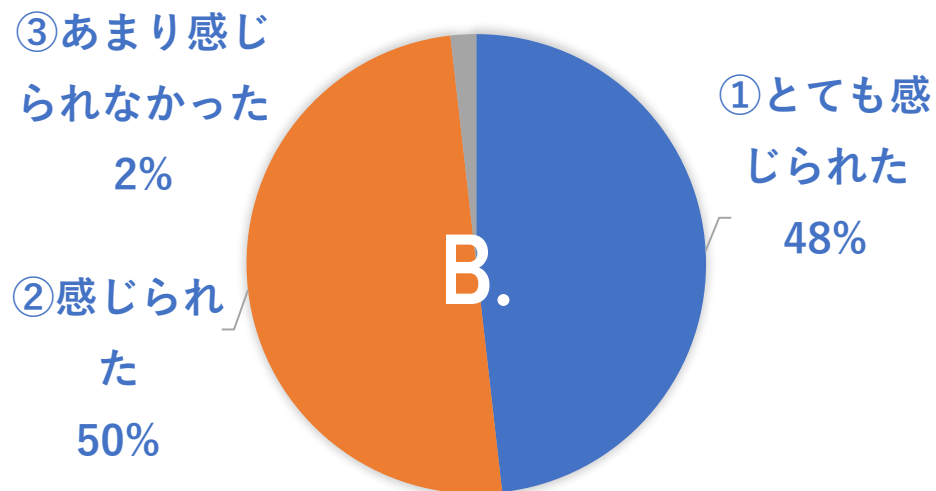


#### A. 従来の防災訓練と比較して満足したか

①②満足した → 参加者の98.2%

#### B. 人と人とのつながりは感じられたか

①②感じられた → 参加者の98.2%



「人と人との絆を深めながら防災意識を高める」目的は達成できたが、参加者は高齢者が多いので、ファミリー層や若者に参加いただくための情報提供が課題

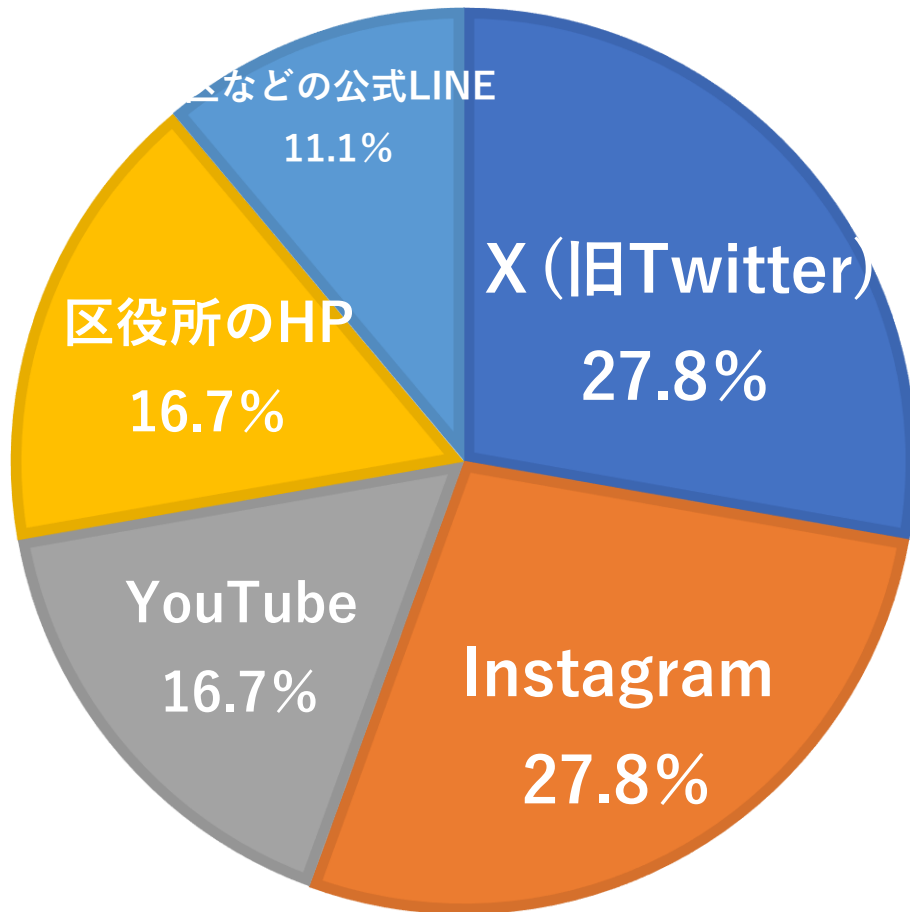




## 2. 2023年イベントアンケート

### 「防災訓練」に関する質問

#### ●新たな媒体（インターネット等）で訓練の情報を入手する際に何を活用しますか？（20代）



InstagramやX(旧Twitter)での情報発信が望まれている

#### ～来年度の課題～

どのようにしたらSNSを活用して若者へ防災訓練の情報を届けることができるのか